

～小中高生の2011年振り返り・2012年展望に関する意識調査～

小中高生が選ぶ、“今年の言葉”は「震災を直接表す言葉」 注目度 No.1 有名人、同率1位で「野田 佳彦首相」と「AKB48」!

eラーニング教材「すらら」を展開する株式会社すららネット(本社:東京都千代田区、代表取締役社長:湯野川孝彦)では、「小中高生の2011年振り返り・2012年展望に関する意識調査」を小学5年生から高校3年生までの男女に実施しました。

- 1) “今年の言葉”は「震災を直接表す言葉」
- 2) こんな年になって欲しい!“来年の言葉”は「幸せを表す言葉」!
- 3) 今年一番印象に残った世の中の出来事、「東日本大震災」6割強
- 4) 個人的にもっとも頑張ったこと、1位「勉強」!
- 5) 今年の小中高生の注目度 No.1 有名人、「野田 佳彦首相」と「AKB48」が同率1位!

1) “今年の言葉”は「震災を直接表す言葉」

「今年の世の中を表す言葉は何か」と質問したところ、「地震」、「震災」、「東日本大震災」など「震災を直接表す言葉」(22.42%)が最も多く、次いで震災の影響を受けているとみられる回答が目立つ「今年の世の中をまとめて表現した言葉」(16.97%)、震災後よく使われた「絆」などの言葉を含む「人とのつながりを示す言葉」(13.33%)となりました。具体的な言葉のTOP5は「地震」、「絆」、「協力」、「震災」、「東日本大震災」という結果でした。

また、その言葉を選んだ理由についても聞いたところ、「震災を直接表す言葉」では、「ニュースの被災地の映像が衝撃的だったから」、「大地震があつて大変な思いをした人がたくさんいるから」といった回答が、「今年の世の中をまとめて表現した言葉」では、「東日本大震災やTPPなどで日本が崩壊し始めているから」、「今年は震災などがあり悲惨なことが多かったからです」との回答がありました。加えて、「人とのつながりを示す言葉」では「大震災で、ほかの国が援助してくれたから」、「東北大震災で沢山の人が協力しあつたと思ったから」というように、東日本大震災の影響を色濃く受けた回答となりました。

■結果:「今年の世の中を表す言葉は何ですか? 単語でお答えください。日本語・英語は問いません。」の回答(単数回答)

No.	カテゴリー	%
1	震災を直接表す言葉(地震、震災、東日本大震災等)	22.42%
2	今年の世の中をまとめて表現した言葉(崩壊、悲惨等)	16.97%
3	人とのつながりを示す言葉(絆、協力等)	13.33%
4	政治に関する言葉(ドジョウ政治、不況等)	10.91%
5	日本を応援する言葉(がんばろう日本!!等)	5.45%
6	なでしこジャパンに関する言葉	1.82%
-	その他	23.64%
-	無回答	5.45%

※本リリースの調査結果をご利用頂く際は、「すららネット調べ」とご明記下さい。

NEWS RELEASE

2) こんな年になって欲しい、“来年の言葉”は「幸せを表す言葉」!

「2012年 はどんな言葉で表せる年になって欲しいか」を聞いたところ、TOP3 は「幸せ」、「笑顔」などの「幸せを表す言葉」(24.24%)、次いで「平和」、「安定」などの「平和を示す言葉」(23.03%)、「復興」、「好景気」などの「好転を表す言葉」(16.36%)となりました。具体的な言葉の TOP5 は「平和」、「復興」、「幸せ」、「笑顔」、「安定」の順となりました。

言葉の選出理由は、「幸せを表す言葉」では、「東北関東大震災の人達(東日本大震災で被災された方々)が早く幸せになってほしいから」や「今年、地震や津波が来て来年こそは、みんなが笑顔になれば良いと思ったから」といった回答が、「平和を示す言葉」では、「震災があって大変な思いをした人がたくさんいたと思うから」や「政治などいろいろなことが安定してほしいから」との回答がありました。加えて、「好転を表す言葉」では、「来年は東北がますます良くなっていくことを願って」や「また地震が来て大丈夫なように進歩してほしいから」というように、1)と同様で東日本大震災を受けて、被災地の復興と、人々の幸せや笑顔を願う子どもの気持ちが表れた結果となりました。

■結果:「来年はどんな言葉で表せる年になって欲しいですか? 単語でお答えください。日本語・英語は問いません。」の回答 (単数回答)

No.	カテゴリー	%
1	幸せを表す言葉(幸せ、笑顔、ハッピー等)	24.24%
2	平和を示す言葉(平和、安定等)	23.03%
3	好転を表す言葉(復興、再建、進歩等)	16.36%
4	人とのつながりを示す言葉(協力、一致団結等)	4.24%
-	その他	24.24%
-	無回答	7.88%

3) 今年一番印象に残った世の中の出来事、「東日本大震災」6割強

「今年一番印象に残った世の中の出来事」では、「東日本大震災関連」が 62.42%で、2位の「スポーツ関連」は 9.09%と、1位が他を大きく引き離す結果となりました。なでしこジャパンの優勝などは大きな話題となりましたが、先述の 1)や 2)の結果にも表れているとおり、小中高生にとっても東日本大震災の印象は他と比べて非常に強いようです。

■結果:「今年一番印象に残った世の中の出来事は何ですか?」の回答 (単数回答)

No.	カテゴリー	%
1	東日本大震災関連の出来事(東日本大震災、原発事故等)	62.42%
2	スポーツ関連(なでしこジャパン優勝、ホークス日本一等)	9.09%
3	世界の出来事(ムバラク政権崩壊等)	5.45%
4	政治関連の出来事(TPP参加表明等)	3.03%
-	その他	10.91%
-	無回答	9.09%

NEWS RELEASE

4) 個人的にもっとも頑張ったこと、1位「勉強」!

「個人的に今年もっとも力を入れたこと」についても聞いたところ、1位が「勉強」(32.12%)、次いで「クラブ・部活動」(15.15%)、3位「スポーツ」(8.48%)という結果となりました。今年は、小中高生にとっても東日本大震災の印象が非常に強い1年でしたが、個人的には、まず自分の目前にある「勉強」や「部活」が第一義のようです。

■結果:「あなたが今年もっとも力を入れたことは何ですか?」の回答(単数回答)

No.	カテゴリー	%
1	勉強	32.12%
2	クラブ・部活動	15.15%
3	スポーツ	8.48%
4	東日本大震災支援活動	4.24%
5	学校行事	3.03%
6	遊び・ゲーム	1.82%
6	節電	1.82%
6	学校生活	1.82%
-	その他	21.82%
-	無回答	9.70%

5) 今年の小中高生の注目度 No.1 有名人、「野田 佳彦首相」と「AKB48」が同率 1 位!

「今年一番注目した有名人は誰か」との問いに対し、今年 3 回目を迎えた選抜総選挙も話題となり、ミリオン連発の「AKB48」と、今年、内閣総理大臣に就任した「野田 佳彦首相」が同率 1 位で、小中高生にとっては、野田首相とAKB48 は同じ注目度ということを示す結果となりました。

「AKB48」は今年、8 月と 10 月に発売したシングルが 2 作連続で発売初日にミリオンを達成し、憧れている小中高生も多いのではないかと考えられます。

一方、「野田首相」については、本リリースの 1)、2)、3)において先述しているように、今年は小中高生にとっても東日本大震災が強く印象に残った出来事であり、その影響もあってか行政の動きにも特に関心が高まったと考えられます。関心が高まる中、政権交代し、新たな内閣総理大臣となった野田首相ですが、TPP(環太平洋パートナーシップ協定)の交渉参加や消費税率引き上げの意向を表明するなど、社会的にも注目されていることから、小中高生の票を集めたようです。

■結果:「今年一番注目した有名人は誰ですか?」の回答(単数回答)

No.	カテゴリー	%
1	野田 佳彦首相	6.06%
1	AKB48	6.06%
3	嵐	5.45%
4	島田 紳助	4.85%
5	澤 穂希	3.64%
5	スティーブ・ジョブズ	3.64%
7	芦田 愛菜	3.03%
7	鈴木 福	3.03%
9	菅 直人	1.82%
9	香川 真司	1.82%
-	その他	43.64%
-	無回答	16.97%

<調査概要>

- 1) 調査名 : 「小中高生の 2011 年振り返り・2012 年展望に関する意識調査」
- 2) 調査方法 : eラーニング教材「すらら」のログイン画面にて回答を得た
- 3) 調査対象 : 小学 5 年生から高校 3 年生までの男女
- 4) 調査期間 : 2011 年 11 月 17 日～11 月 30 日
- 5) 有効回答数: 165 名<男性: 93 名・女性: 72 名、小学 5～6 年生: 24 名・中学生: 113 名・高校生: 28 名>

NEWS RELEASE

■eラーニング教材「すらら」とは

【学習範囲】 小学5年生から高校までの学習指導要領に準拠

【対応教科】 英語・数学・国語

【特徴】

○Point 1 「弱点自動判別システム」搭載

分からない理由が明確になれば、あとはその弱点を克服するのみ。克服のためのドリルも出題。

○Point 2 理解度に応じてカスタマイズされた問題を出題

勉強がいやになる理由のひとつは、「難しすぎる」あるいは「簡単すぎる」問題に取り組まなければならないということ。「すらら」は理解度に合わせてカスタマイズすることで、「簡単すぎず難しすぎない」問題が出題されるため、学力レベルに関係なく、すべてのお子様、達成感を感じ自信を深めながら、学習を進めていくことが可能。

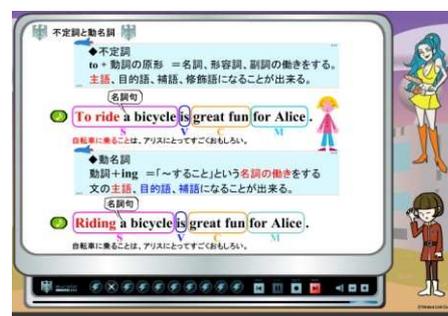
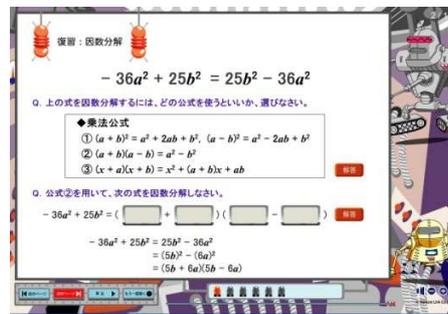
○Point 3 「理解」と「定着」を一体化

「すらら」はスモールステップで「根本理解」を促すアニメーションによるレクチャー（授業）と、理解したことを「定着」させるためのドリルが一体化。これによって、「わかる」喜びと「解ける」楽しさを同時に味わいながら、お子様は学習を進めることが可能。

<参考>これまでのeラーニング教材の大半は以下の3パターン

1. 動画配信型：カリスマ講師のレクチャービデオを視聴するタイプ
「理解」にはすぐれているが「反復」の部分がないうえやりっぱなしになってしまう、実力が身につかない傾向がある。また、一方的な説明となるため、比較的意識の高いお子様でないと、集中力が続かない。
2. 問題集型：問題集の結果をパソコンに打ち出して結果分析をするタイプ
「定着」にすぐれているが「理解」の部分がないうえ、学力の高い生徒でないと一人で学習を進めることが困難な傾向がある。
3. ゲーム型：携帯用ゲーム機などを使って学習するタイプ
非常に楽しく学習できるが、単語など反復による暗記系が中心で、体系的な学習には不向き。

「すらら」はこうしたそれぞれの短所を補い、長所を相乗効果的に組合せた、理想の"次世代型教育システム"です。



■株式会社すららネット 会社概要

- 設立：2008年8月 ○ 資本金：6,285万円 ○ 所在地：東京都千代田区内神田
- 事業内容：eラーニングによる教育サービスの提供および運用コンサルティング、マーケティングプロモーション及びホームページの運営
- 会社 URL： <http://surala.jp/>